

会長 橋本正己
 新潟県山岳協会
 上越市南城町2-3-37
 TEL 025-524-7215

事務局 稲田春男
 柿崎町百木1023
 TEL 0255-36-3958

編集 新山協ニュース編集
 委員会代表 諏訪恵一
 TEL 0258-35-4373

新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

婦人委員会親睦登山報告

婦人委員長 山田 智子

不動山の山頂で三百六十度の大パノラマを満喫しながら親睦を深め、集合写真を撮って下山というセレモニーを考えていたのですが、梅雨真っ只中の晴れ間は狙えず、雨の一日になってしまいました。今年も98名の大変多くのご参加を頂き、ありがとうございました。林道の土砂崩れによる復旧工事の箇所を、登山口まで入れて頂きました上に、名立町役場の笹川副参事様には休日返上で私共の動きに併せたご対応をしてくださり、感謝の気持ちで一杯です。

雨具や靴を泥パックにしての一日でしたが、全員が当たり前のことですが、何事もなく下山出来、皆さんのニコニコとした笑顔に心からほっとさせられました。皆さんを見送って最後に駐車場を後にするときに、「不動さん有難うございました。今度は晴れた日に登らせて下さい」と山容を見せてくれなかったガスの中

の不動山を仰ぎました。不動山に登るのが初めてという参加者が多かったためか、雨天中止が決行になった感が無きにも非ずでしたが、雨は私に貴重な経験を与えてくれました。山頂まで急登40分の分岐で、行くか戻るか、選択させるか、現場での確な判断をして即決することでした。参加者は指示に従うことになりましたが、協会行事は登山の経験者ばかりですので、今回は可能ならば二手に分けようと分岐へ着くまでに決めました。何事も生じなければその判断は○となりますが、滑った転んだで何かが生じた場合は、ゲートを開けてくださった町にもご迷惑をかけることになり、責任も問われます。改めて引き返す勇氣を持たせている意義の大きさを、こういう場合も当てはまるのだと実感させられました。結局自己判断に任せて、山頂組みと下山組みの二手に分かれての行動としました。

小林、首藤の二人に60人を『しっかり下ろしてくれ』と、いろんな気持ちを込めて頼み、あつてはならないが万が一の時を考え私は下山組みの後を追いました。大事な時に沈着冷静でありたいと思うのですが、自分のザックの中にあるザイルもツェルトもすっかり忘れていたことに、下山してから気がつきました。赤布を使ったのみで何事もなく終了させていただけ感謝倍増でした。

予定通りに行かなかったことが多々ありましたが、私共委員会の行き届かない部分を今回も皆さんに助けられての終了でした。下山をしてこられたときの笑顔の皆さんから、「雨も又楽し」と、よい結果にとらせて頂

き、次回へに気持ちを切り替えることも出来ました。林道の復旧工事完了後には登りに行く機会を作り、三百六十度の大パノラマを楽しんで下さいますように望んでおります。又、火打山より不動山を見つけてください。

雨に一日お疲れ様でございました。有難うございました。
 (続きは次頁へ)



雨にけむる記念写真

第6回新潟カップ開催される

8月30、31日の両日、関川村の「せきかわドーム」を会場に新潟県内のクライミングの普及とレベルアップを目的とした第6回新潟カップが開催された。大会内容は次のとおり。

【1日目】団体戦

オンサイト5・10d以下を対象とし、3名1チーム構成で5チームが参加した。

【2日目】オープン戦

男子16名、女子7名の合計23名が参加した。

【男子】

男子予選で9名が準決勝に進み、そのうち2名完登。

2名で決勝が行われ、レベルの高い対決となった。

出場者は高校生中学生が半数を占めており、将来が楽しみ。

【女子】

人数が少ないため、全員準決勝に進み、順位を決定した。

男子と同ルートを使用したため、少し難しかったようだ。

パワー不足を感じた。

【感想】

まだまだまい選手がいるのに、参加してもらえず残念。来年はポスターを作るなどして、もっと参加を呼びかけたい。

ルートは予定していたグレードに仕上がったと思う。

しかし、もっと勉強が必要と思う。

クライミング委員長
内山 豊

【大会結果】

○団体戦

1位 糸魚川白嶺高校登山部
(脇田大翼、霜越 歩、大山峰幸)

2位 いといがわなかよしクライミングクラブ(五十嵐祐子、網島智也、久保田聡)

3位 モモンガ(小野良典、山田真史、諏訪恵一)

○オープン男子

1位 本田 達

2位 平沢健太郎

3位 山田 真史

○オープン女子

1位 本田 和恵

2位 丸山 由貴

3位 小林 美久

3位 水野 美咲

新潟カップを終えて

糸魚川ジュニアクライミング

糸魚川白嶺高校3年 大山峰 幸

今年の新潟カップは、とても不安なことが1つありました。それは、受験生ということで、1ヶ月間まったく練習をしなかったことです。大会前3日間、勘を取り戻すために、充実している二年生と練習しましたが満足のいく調整

目個人戦では前日の疲れが残っていたせいか、予選敗退という結果に終わりましたが、クライミングに一生懸命取り組むことのできた三年間はとても充実していました。高校卒業後は、自分の好きなアウトドア活動を充実させて、登山とクライミングを多くの人たちに伝えていきたいと思っています。今回新潟カップで応援してくださった山岳協会の皆さんに、心から感謝します。ありがとうございました。

(前頁の続き)

婦人委員会親睦登山に参加して

南魚山岳の会 小林 文子

天候は梅雨のど真ん中ということもあり、あいにくの雨。上りは尾根コース、下りはトラバース気味の迂回路を下山予定。途中1000m付近では水芭蕉が咲き、珍しい座禅草も一輪咲いているのを発見でき、とても幸運でした。迂回路分岐にて、上部急勾配

こっちゃんが妙高：「」などと言いながら楽しく昼食を食べ、景色が見えればなお良し、見えなくてもそれでよしと考えながら出発しました。下山した人たちもフキを採ったり、ミズナを採ったりと楽しめたようです。委員長には決行の判断、危険回避の判断と大変な心労があったと思います。また、この企画が無ければおそらくこの山に来ることが出来なかっただろうと思います。そして、一人でも多くの方と知り合うことが出来たのも喜びのひとつです。ありがとうございました。

第42回全日本登山体育大会開催される

「輝け響け白馬賛歌」をテーマに長野県後立山連峰（白馬岳・唐松岳・梅池自然園他）を会場に8月22～24日にかけて、第42回全日本登山体育大会長野大会が開催された。主催した長野県山岳協会は、五百名に余る参加者を得てこれを実施、3日間の会期は好天のなか、すばらしい行事だった。

この大会は、第1回を昭和31年11月に関西地区主管で、

大峯山・大台ヶ原を会場として始まり、本県も、第7回を昭和38年7月に魚沼三山で実施した。

広く日本全国の登山愛好者が集う行事で、有意義な講演会あり、パーティありで、親睦と交流を深めることが目的となっている。

なお、来年は、東京都の主管で、11月に奥多摩で開催されることになっている。

（理事長 片桐一夫）



笹平から望む閃緑玢岩の雨飾山

山と岩石

さわがに山岳会 小野 健

②⑤ 東北日本、西端県境の山

フォッサマグナ帯最北部の県境には、日本百名山で、有名になった雨飾山があります。梅海新道の山並みから見ると、高度が2,000m不足のため、金山や天狗原山に重なって、全く目立たない山なのです。しかし、中央に小さな尖峰をもつ、個性的な姿に人気があるのでしょう。

古くから、信仰や雨乞いの山として、地域と深いかわりを持ってきました。山頂は小さな双耳峰より成り、北峰に4体の石仏と祠があります。笹平には、初夏になるとお花畑が広がって、楽しませてくれます。

山体は、大渚山や鉾ヶ岳と同じ、第三紀中新世の堆積岩に貫入した安山岩や閃緑玢岩より成り、東西両面には大岩壁を擁しています。第三紀層周辺部の地下水は、貫入岩を熱源として温水となり、小谷温泉や梶山温泉の源泉となっているのです。

西側に対峙する北アとは、生い立ちも、山容も異にして、その存在を誇っています。



唐松山荘から見た「唐松岳」

第42回全日本登山体育大会・長野県白馬大会「輝け響け白馬賛歌」のスローガンのもとに8月22日から24日にかけて後立山連峰を会場に行われた。全国から五百名余りが参加し大会役員を加えて六百名の登山家が集った。

コースは白馬岳（大雪溪・課もコース）白馬鍵温泉・唐松岳（八方尾根コース）その他周辺散策コースなどが計画

素晴らしかった鹿島槍ヶ岳

（全日登山大会に参加して）

長岡HC 木野本 宏 志

された。新潟県からは橋本会長以下12名が参加した。私は唐松岳コースに参加した。

昨年藤井前会長からこの話を聞いた時から参加する事を決めていた。

白馬岳は約40年前に登った事があるだけで後立山連峰登山は永年の夢であった。特に鹿島槍ヶ岳には強い憧れを持っている。22日はセレモニーで、実際の山行は23日から当日は久しぶりの快晴で時には少々ガスが懸かったりして山岳写真撮るには絶好な日でもあった。白馬三山が手に取るように目の前に迫り登るにしたがって五竜岳に続いて鹿島槍が見えた時は最高の気分であり、満足であった。

当日一般の登山客が多く混み合ったのも一因であったが、同じグループの他県の人々と交流しその地域の山について話し合いたかったが実現出来なかったのが残念であった。来年は東京の多摩地区で行われるとの事。

後年良き計画があれば参加したいと思う。

お知らせ

◇曲亜加吉瑪峰遠征案内

今年7月中旬から8月上旬にかけて計画されていた曲亜加吉瑪峰遠征が、諸般の事情により延期されていましたが、来夏の実施に向けて中国青海省登山協会との調整が進んでいます。

参加希望者は詳細をお問い合わせください。

【問合せ先】

登山隊長 阿部信一
〒950-0812
新潟市豊1-11-20
TEL 025-273-1572
FAX 025-273-1588

◇新山協ニュース直送

「新山協ニュース」をご希望の方に直接お届けします。毎月加盟団体宛に送付していますが、集会前に読みたい、手元に置いてじっくり見たい、と言うご希望にお答えして、お申し込みいただいた方に直送サービスをしています。

ご希望の方は、郵便番号、住所、氏名、電話番号、所属団体名を明記の上、50円切手24枚(1年分)を添えて会報

編集委員会までお申込みください。

なお、お送りする「新山協ニュース」はコピー版になります。

【申込み先】

〒940-0825
長岡市高畑町610-10
諏訪 恵一方
新潟県山岳協会
会報編集委員会

お願い

◎分担金納入のお願い

日頃は、協会事業に格別のご協力をいただきお礼申し上げます。

春にもお願いさせていただきますが、協会運営は加盟団体の皆様からの分担金で行っております。

加盟団体の皆様におかれましては諸般の事情がおりかと思いますが、ご理解を賜り、ご協力を戴きますようお願いいたします。

なお、既に納入いただきました団体各位にはお礼申し上げます。

事務局長 稲田春男

(銀行口座)

第四銀行長岡駅前支店
普通預金 1179492
名義 新潟県山岳協会
(郵便振替)
名義 新潟県山岳協
口座番号 006500-
812040

◎賛助会加入のお願い

総務委員会では予てより、新潟県山岳協会賛助会へ多数の皆様からご加入をいただき、協会を盛り上げていただき、すようお願いをいたしております。

なお、法人様につきましては、ご加入をお願いいたしておりますので、詳細につきましては、総務委員会までお尋ねいただけますようご案内いたします。

総務委員長 七沢恭四郎

4条第4項に規定する賛助会員については本内規によるものとする。

第2条 賛助会員は、本協会の目的、事業に賛同する団体及び個人で理事会の承認を得たものとする。

第3条 本協会は、賛助会員について次の通り処遇する。

(1) 本協会機関紙「新山協ニュース」及び「賛助会員名簿」を発行のつどそれぞれ送付する。

(2) 入会した時に「新山協ニュース」紙上に氏名等を発表し、広く普及を図る。

第4条 賛助会員は、規約第19条2項の規定に基づき会費を納入するものとする。

この内規は平成14年1月19日から施行する。

◇賛助会費

年額 一万円

◇申込み・問合せ

総務委員長 七沢恭四郎
〒943-0154
上越市稲田4-12-31
TEL/FAX 025-523-7661

「新潟県山岳協会賛助

会員に関する内規」

第1条 新潟県山岳協会規約(以下「規約」という)第



登山・アウトドアの専門店



新潟市東大通2丁目5番1号 ☎(025)243-6330(代)

登山・ハイキング・クライミング テレマーク&山スキー



パーマーク
長岡市西堂内2-97(長岡市役所裏通り)
TEL0258(37)1200-FAX0258(33)1164
●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜定休

<http://www.parrmark.co.jp>